西村証券

2026年10月30日 発行

チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第135回「日経平均株価とNASDAQ総合株価」

日経平均株価は、10月に入り値動きが激しくなってきました。10月初旬には7万円台を回復しましたが、その後米国の新興クラウド会社の債務懸念から不安定な動きとなったNASDAQ総合株価に追随して反落しました。その下落率は、震源であるNASDAQ総合株価よりも大きくなっています。今週は、日経平均株価とNASDAQ総合株価の動きを対比し、今後の日経平均株価の動きを考えます。

～年初来の日経平均株価～

裏面グラフ1をご覧ください。このグラフは、日経平均株価の日次の動きを示しています。期間は昨年末から10月23日までです。今年に入り、10%超下落した局面が3回ありました。第1の下落局面（①）は2月27日～3月31日で13.2%下落しました。この時の下落要因は、突如として始まった米国の対イラン軍事作戦でした。この軍事作戦で中東情勢が緊迫し、原油価格が急騰し世界経済の先行きが不透明になりました。その後、AI開発競争で投資が急拡大し、AI・半導体関連企業の業績期待から日経平均株価は6月25日に最高値72,366円をつけましたが、その後、半導体供給過多への懸念などから急落し、7月29日に61,434円まで下落しました。これが、第2の下落局面（②）でした。その下落率は－15.1%となりました。第3の下落局面（③）は今月6日につけた高値70,683円から先週末の引け値62,693円まで急落した局面です。下落率は－11.3%となりました。この下落要因は、冒頭でもお伝えしましたが、AIインフラを巨額債務で構築し、それらを貸し付けるクラウド事業者である「コアウィーブ」の債務懸念が台頭し、株式市場で同社のみならずAI・半導体関連銘柄の株価が大きく下がった影響を受けたことです。

～年初来のNASDAQ総合株価～

次にグラフ2をご覧ください。このグラフは米国NASDAQ総合株価の日次の動きを示しています。期間はグラフ1と同じ期間です。NASDAQ総合株価も今年に入って3回の下落局面がありました。1回目が1月28日～3月30日の期間（①）で下落率は－12.8%、2回目が6月2日～7月29日の期間（②）で下落率が－9.8%、直近3回目が10月6日～23日の期間（③）で下落率は－6.0%となっています。

このNASDAQ総合株価の動きとグラフ1の日経平均株価の動きを見ると、株価の上げ、下げがほとんど同じタイミングで起こっており、半導体関連銘柄が多い日経平均株価の動きは、NASDAQ総合株価の影響を直に受けていることが分かります。ただ、詳細に見るとNASDAQ総合株価の2回目、3回目の下落率は、日経平均株価の同時期の下落率より小さくなり、全体として右肩上がりを維持しているように見えます。一方、日経平均株価は上値が重くなっています。

西村証券株式会社　NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL：075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者　近畿財務局長(金商)第26号
加入協会：日本証券業協会　主な事業：金融商品取引業
指定紛争解決機関：特定非営利活動法人　証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したものではなく、あくまで情報提供を目的とした書面です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の承諾なしに、第三者への配布・複製等はお控えください。

「コアウィーブ」などの債務懸念や一部報道されているAI・半導体関連企業間の循環取引などAI・半導体関連銘柄の下落要因は米国発のものが多いにもかかわらず、日経平均株価の方が弱い展開となっています。この違いは、米国企業の決算発表が半月ほど先行していることに起因していると思います。米国企業の決算発表でネガティブなことが出てくると日本企業にも同じことが起こるのではないかとの疑念が生じ、日経平均株価は下がりやすくなると考えます。

～今後の日経平均株価動向～

AI産業の主導権を握るための開発競争はこれからも激しくなると考えられ、AI・半導体関連需要はしばらくの間世界経済を引っ張っていくと想定しています。また、フィジカルAIなどロボット分野や自動運転分野などわが国製造業が強みを持つ分野の成長も期待され、株価上昇は継続すると考えます。日本の3月期中間決算の発表が先週から始まりましたが、AI・半導体関連企業を中心に好業績見通しとなることが期待されます。上値の重い日経平均株価も徐々に企業業績を織り込み、強含みの展開になることを切に願っております。

（当レポートは10月25日に執筆しました。）

グラフ1



グラフ2



本書面の著作権は当社に帰属します。当社の承諾なしに、第三者への配布・複製等はお控えください。